

令和7年度 第1学期終業式 講話

夏季休業期間を迎えることとなりますので、第一学期の終業式を執り行います。

まず、今学期の始業式の際に、昨年度末に実施した「高校生の意識及び生活に関する調査」の結果を踏まえ、自分自身やそれを取り巻く環境をより良くするためには、自ら考え行動する力、すなわち主体性を高めていくことが欠かせない旨を伝えました。そこで、自らが置かれている状況を客観視し、自身の判断により執るべき行動を選択してそのことに積極的に取り組むこと、周囲に気を配り議論等を通じて関係者の根底にある多様な価値を顕在化させること、異なる意見や立場を調整し、全員が納得できる決定や解決策を導き出すプロセスである合意形成を積み重ね、全体を俯瞰した上で集団として向上を図っていくこと、こうした取組や対応を期待していると告げました。

先日、行われた生徒総会においては、生徒会を中心に学校生活に係る改善点や要望等について、アンケート等の実施を積み重ねて綿密に生徒の意見を事前に集約し、限られた時間の中で生徒の声を直接確認しながら整理を施しました。今後もこうした取組を更に推し進め、各自が自分事として自身やその身の回りのことについて向き合い続けることを願っています。

さて、明日からの夏季休業を迎えるに当たり、各自の心に留めておきたいことについて触れていきます。それは、「時間」についての考え方です。かつて、本田技研工業の創業者である本田宗一郎は、「時間だけは神様が平等に与えてくださった。これをいかに有効に使うかはその人の才覚であって、うまく利用した人がこの世の中の成功者なんだ。」と述べています。慌ただしい生活に追われ、漫然とした姿勢で物事に臨んだり、継続しなければならない地道な取組に対して節操のない状態でやり過ごしては、時間の浪費に過ぎません。「それで良いのか」と常に問いかけて検証しながら、有意義な取組を積み重ねていくことができるかどうかで目的や目標に対する成否が変わ

てくるものと考えられます。

また、我が国において「働き方改革」が提唱されて久しいところですが、これからの社会においては、周囲との信頼関係を築いていく上ではもちろんのこと、新たな資格取得やスキルアップを図るといった自分自身の成長を遂げていくためにも、自己管理能力の一翼をなす「タイムマネジメント」が重要視されていくものと考えます。古代ギリシアに出て学校(リュケイオン)を開き、教育にも力を注いだ哲学者のアリストテレスは、「人は習慣によってつくられる。優れた結果は一時的な行動ではなく、習慣から生まれる。」とし、目標を設定し、その到達に向けて努力することの大切さを説きました。

さらに、「タイムマネジメント」とは、短期的な目標に向かって適切に時間を管理できることに加え、将来的な目標を作ってそれに向かって着実に準備を進めることができることも含まれると言われます。19世紀初めに皇帝としてフランスの政権を担ったナポレオン1世(ナポレオン・ボナパルト)は、「私は常に、2年先のことを考えて生きている。」という言葉を残しています。こうした「タイムマネジメント」に係る対応力を身に付けることは、業務の効率化と生産性の向上といった個人のパフォーマンスだけでなく、チームワークの強化やストレスの低減、コストの削減等にも及び、組織全体の成長と発展にも大きく寄与するものと捉えられています。

明治初期から昭和初期にかけて活躍した実業家で、現在の一橋大学の設立にも関わり、「日本資本主義の父」と称され、1万円札に描かれている渋沢栄一は、「夢なき者は理想なし、理想なき者は信念なし、信念なき者は計画なし、計画なき者は実行なし、実行なき者は成果なし、成果なき者は幸福なし、ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。」とし、できるだけ多くの人に多くの幸福を与えるよう行動することが人としての義務であるとしています。一人一人がこの夏を有意義に過ごし、成長を遂げた姿で第二学期を迎えることは、本校はもとより地域の発展にも繋がるということを認識した上で、自覚ある自律的な行動を重ねていくことを期待します。